CAMEDIA

4

より良い写真を撮るために

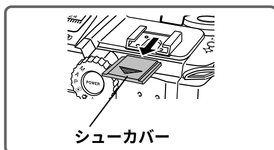
OLYMPUS DIGITAL CAMERA

専用外部フラッシュFL-40（別売）を使って撮影する

別売の専用外部フラッシュを使うことによって、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。
専用外部フラッシュのみを使っての撮影および、内蔵フラッシュと併用して撮影することもできます。
内蔵フラッシュの準備や撮影可能範囲、フラッシュモードについては『使ってみましょう』の『フラッシュを使って撮影しましょう』（P.49）を参照してください。

専用外部フラッシュの接続のしかた

専用外部フラッシュを接続します。



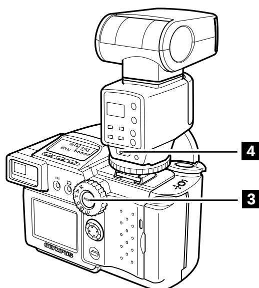
操作方法

1 シューカバーを取り外します。
カメラを構えるように左手で持ち、シューカバーの両端を親指と人差し指でつまみながら、矢印の方向に人差し指で押して外してください。

2 外部フラッシュFL-40を取り付けます。
フラッシュの取り付け方法については、外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。


メモ

- **カメラにはホットシューの保護のためにカバーが取り付けられています。専用外部フラッシュを使用する場合は、カバーを取り外してください。カバーを取り外した後は、カバーをなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外した後は、再度カバーを取り付けておいてください。**



3 カメラの電源を入れます。

4 外部フラッシュの電源を入れます。



- 取り付け時、取りはずし時に外部フラッシュの状態により、誤発光することがあります。
- 近距離撮影（1.5m以内）の時は、白飛びおよびけられ防止のため内蔵フラッシュのみのご使用をおすすめします。
- スーパーマクロモードでは専用外部フラッシュの電源を入れておくことで強制発光に設定することができます。ただし、レンズ部により影がでたり正しく調光できないことがあります。発光させたくない場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。

注意

C-2500Lと外部フラッシュを接続してご使用になる場合は次の点に注意してください。

- 近距離撮影時、露出がオーバーになる場合があります。外部フラッシュで露出を補正するか、内蔵フラッシュをお使いください。
- 内蔵フラッシュと外部フラッシュFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源としての発光になるため外部フラッシュの光量が足りないと露出アンダーとなります。
- FL-40以外の外部フラッシュを使った撮影は、撮影時の状態、使用するフラッシュ、カメラの設定などによって、撮影結果が変わります。専用以外の外部フラッシュを用いて撮影した画像については保証しかねますのでご了承ください。

「P」／「A」モードで専用外部フラッシュを使う

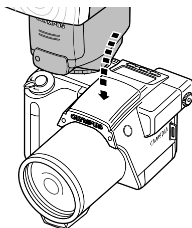
「P」または「A」モードで専用外部フラッシュを使う場合、C-2500Lのフラッシュモードを自動的に検出するため内蔵フラッシュと同様に使うことができます。
また、内蔵フラッシュと専用外部フラッシュを同時に使うこともできます。

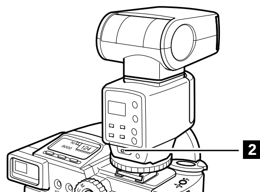
●専用外部フラッシュのみを使う

「P」／「A」モードで専用外部フラッシュのみを使う場合は、内蔵フラッシュは閉じてください。内蔵フラッシュと同じように使うことができます。
専用外部フラッシュを使うことによって、内蔵フラッシュでは光が届かない遠くの被写体を照らすこともできます。
専用外部フラッシュを発光禁止にする場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。
内蔵フラッシュのフラッシュモードについては『使ってみよう』の『フラッシュを使って撮影しましょう』(P.49)を参照してください。

・オート発光（P.52）
・赤目軽減発光 👁（P.53）
・強制発光 ϟ （P.55）

専用外部フラッシュを使って撮影する





操作方法

1 内蔵フラッシュが閉じていることを確認します。
内蔵フラッシュが上がっている場合は、閉じます。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。
専用外部フラッシュを発光禁止にする場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。

3 カメラ本体のフラッシュモードを選択します。
フラッシュモードには「オート発光」「赤目軽減モード」「強制発光モード」があります。
フラッシュモードの切り替えについては、『フラッシュモードの切り替え』(P.51)を参照してください。

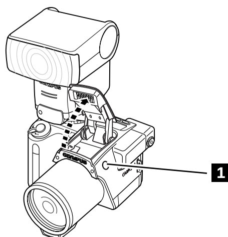
4 シャッターボタンを半押しします。
ファインダー横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

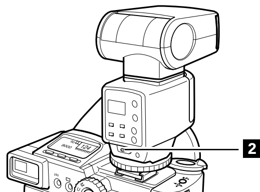
5 シャッターボタンを押し切ります。
専用外部フラッシュが発光します。

6 発光確認をします。
適正発光なら専用外部フラッシュのオートチェックランプが点滅します。

●専用外部フラッシュと内蔵フラッシュの併用

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影することができます。専用外部フラッシュをバウンスさせ内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得るなど、高度なフラッシュ撮影を行うことができます。





操作方法

1 内蔵フラッシュを上げます。

2 専用外部フラッシュの電源を入れます。
専用外部フラッシュを発光禁止にする場合は専用外部フラッシュの電源をOFFにしてください。

3 カメラ本体でフラッシュモードを選択します。
フラッシュモードには「オート発光」「赤目軽減モード」「強制発光モード」があります。
フラッシュモードの切り替えについては、『フラッシュモードの切り替え』（P.51）を参照してください。

4 シャッターボタンを半押しします。
ファインダー横のオレンジランプが点灯します。

5 シャッターボタンを押し切ります。
専用外部フラッシュと内蔵フラッシュが発光します。

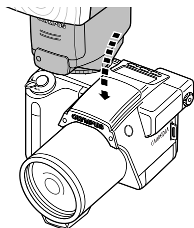
「M」モードで専用外部フラッシュを使う

「M モード」で専用外部フラッシュを使う場合は、専用外部フラッシュで「TTL-AUTO」もしくは「マニュアル」を選択することができます。

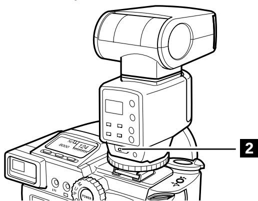
●専用外部フラッシュのみを使う

専用外部フラッシュのみを発光させる場合は、内蔵フラッシュを閉じてください。
「M モード」では、フラッシュモードの「オート発光」「赤目軽減発光」は使うことができません。専用外部フラッシュの電源をONにすると強制発光モードとなります。

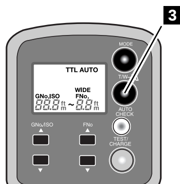
操作方法



1 内蔵フラッシュが閉じてしていることを確認します。
内蔵フラッシュが上がっている場合は、閉じます。



2 専用外部フラッシュの電源を入れます。
専用外部フラッシュが自動的に「強制発光」となります。



3 専用外部フラッシュのコントロールパネルで「TTL-AUTO」または「MANUAL」を選択します。

専用外部フラッシュでのモードの選択方法については、専用外部フラッシュの取扱説明書を参照してください。

4 シャッターボタンを半押しします。

ファインダー横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

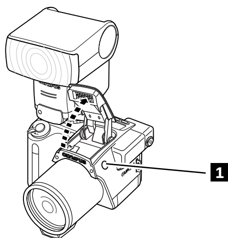
5 シャッターボタンを押し切ります。

専用外部フラッシュが発光します。

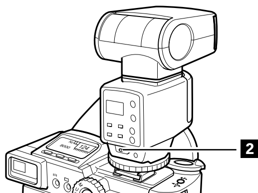
●「M」モードでの専用外部フラッシュと内蔵フラッシュの併用

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュを併用して撮影することができます。専用外部フラッシュをバウンスさせ内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得るなど、高度なフラッシュ撮影をおこなうことができます。

操作方法



1 内蔵フラッシュを上げます。



2 専用外部フラッシュの電源を入れます。

専用外部フラッシュが自動的に「強制発光」となります。

4 シャッターボタンを半押しします。

ファインダー横のオレンジランプと緑ランプが点灯します。

5 シャッターボタンを押し切ります。

専用外部フラッシュと内蔵フラッシュが発光します。

市販の外部フラッシュを接続する

このカメラで使える外部フラッシュについて
別売の専用外部フラッシュをお使いください。ただし、以下の条件を満たす市販の外部フラッシュも使用できます。

1. 外部フラッシュ使用時の発光量は外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでお使いになる場合は、オートF値をF2.8とF5.6の設定ができる製品をお使いください。

2. 外部フラッシュのオートF値をF2.8もしくはF5.6の設定にしても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は、外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで撮影距離からガイドナンバーを計算してお使いください。ただし、オートでのF値、ISO値のシフトは1EV刻みが一般的で、それ以下の露出補正はできません。カメラ側のフラッシュ発光量補正は外部フラッシュの撮影では無効になります。

3. 照射角度は35mmフィルム換算で焦点距離35mmレンズ以上をカバーする製品をご使用ください。ただし、ワイド近距離撮影においては画面下がけられる場合がありますので、フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものをお使いになることをおすすめします。

4. フル発光時の閃光時間が1/200秒より短い製品をご使用ください。リングフラッシュ等閃光時間が長いものは光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

5. FL-40以外の通信機能付フラッシュを接続するとフラッシュまたはカメラにダメージを与えることがあります。

注意 **市販の外部ストロボを低輝度時に「P」／「A」モードで撮影するとシャッター速が遅くなり手ぶれしやすくなります。低輝度時ご使用の際は、「M」モードでシャッター速を1/40～1/100に設定してご使用いただくことをおすすめします。**

ピントを合わせる（フォーカスについて）

マニュアルフォーカス

オートフォーカスのピント合わせは、被写体のコントラストを利用しています。したがって、距離の異なるものがまじっている被写体や繰り返しのパターンが連続するもの、青空や壁などのコントラストがはっきりしないもの、スポットライトのように明るすぎるもの、水面などきらきら輝いているものなどは、オートフォーカスが迷ってピントが合いにくくなります。フォーカスロックを使ってピントを合わせるか、マニュアルフォーカスを使って手動でピントを合わせます。
オートフォーカスの苦手な被写体については『オートフォーカスの苦手な被写体』（P.44）を参照してください。
また、被写体のコントラストが少ないときや三脚を使って撮影するときなどは、フォーカスロックをしてから構図を整える作業がやりにくく、撮影操作が煩雑になるのでマニュアルフォーカスを使って手動でピントを合わせるようにしましょう。

1 [FOCUS]ボタンを押し、マニュアルフォーカスに設定します。

2 十字ボタンの △ ▽ で、被写体までのおおよその距離を設定します。

詳細は『マニュアルフォーカス』（P.76）を参照してください。

おきピン

走っている電車などを撮影するとき、走ってきている最中にピントを合わせていたのでは被写体が走りすぎてしまい、シャッターチャンスをのがしてしまいます。
そこで、走ってきている被写体が通りすぎる近くの目印でピントを合わせて、被写体がそこを通り過ぎる瞬間にシャッターボタンを押し切ります。

1 被写体が通りすぎる近くの目印にピントを合わせます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま[OK]ボタンを押します。
ここでシャッターボタンをはなしてもフォーカスは固定されます。

3 被写体が走ってきたらシャッターボタンを押し切ります。
フォーカスが固定されたまま被写体に露出が合い撮影されます。

植物を近接撮影する

「マクロ」や「スーパーマクロ（WIDE使用時のみ）」機能を使うと、細い雌しべやおしべまでをしっかり撮影することができます。
通常の撮影では被写体に0.6mまでしか寄れませんが、「マクロ」は被写体に0.3mまで寄ることができます。また、「スーパーマクロ」を使うと、さらに被写体に2cmまで寄ることができます。
マクロ撮影では、通常の撮影に比べ被写体までの距離が圧倒的に近いため、ちょっとした手や被写体の動きが写真に反映し、ぶれてしまいます。しっかりと、両手で構えてください。三脚を使うと、より確実です。

●目的に応じてズームを使い分ける

背景に余分なものを入れずに自然な雰囲気で植物を撮影したい場合は、ズームのTELE（望遠）を使って撮影すると良いでしょう。
物の大小関係も見た目に近く撮影ができます。また、背景に余分なものが入らず、ぼけるので自然な雰囲気を出すことができます。

マクロ（TELE）



マクロ（WIDE）



●被写体がフレームの中央にないとき

被写体がフレームの中央にないときなどはピントが合いにくくなります。このようなときは、被写体を中央に置き、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせてから、構図を変えて撮影します。

1 ファインダーをのぞき、撮影する被写体をオートフォーカスマークに合わせます。

2 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

3 構図を変え、シャッターボタンを押し切ります。

●近くのもの、被写体が小さすぎるとき

植物を接写するときなど、被写体が細かったり、小さすぎてピントが合いにくくなるときがあります。
このようなときは、被写体と同じ距離に仮の被写体を置いて、ピントを合わせます。

1 被写体の手前にピント合わせのため、仮の被写体を置きます。

2 ファインダーをのぞき、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
ピントが固定され、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

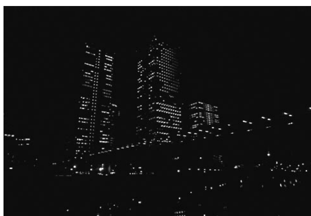
3 シャッターボタンを半押ししたまま仮の被写体を取り除き、構図を決めシャッターボタンを押し切ります。

夜景を撮影する

普通の露出で夜景を撮影すると暗すぎて、夜景がきれいに写らないという現象がおこります。
これは、カメラの露出が自動で夜景も標準の明るさで露光してしまうからです。

夜景は適した露出にすることで撮影することができます。
「M」モードを使って、シャッタースピードを遅く設定しましょう。
ISOの感度は数値が大きくなればなるほど、短いシャッタースピードで撮影することができますが、画像が荒くなってしまうので、何枚か撮影して、適切なISO感度を選択するとよいでしょう。
ピントが合いにくいときは、マニュアルフォーカス（P.76）を使いましょう。
測光は広い範囲で測光する中央重点測光に設定します。

自動露出



長時間シャッター



夜景撮影はシャッタースピードを遅く設定するので、少しのぶれが画像に大きく影響してしまいます。
三脚を使って撮影することをおすすめします。
何枚か夜景を撮影して、適切な絞り値やシャッタースピードを見つけてより良い画像を撮影しましょう。

後幕シンクロ効果を使う

フラッシュを併用したスローシャッターで撮影する方法（スローシンクロ）の、露光時間の最後にフラッシュを発光させて撮影します。
夜間に走行中の自動車の写真を撮るとき、テールランプが尾を引くように撮影することができます。

C-2500Lでは、後幕シンクロを設定することによって簡単に撮影することができます。

後幕シンクロ効果



先幕シンクロ効果に設定することで、後幕シンクロ効果とは逆に走行中の自動車のヘッドライトが走行方向に流れるように撮影することもできます。

先幕シンクロ効果



スローシャッターで撮影するため、少しのぶれでも大きく影響してくるので、三脚を使って撮影すると良いでしょう。
詳細は『後幕シンクロ効果で撮影する』（P.110）を参照してください。

蛍光灯の下で自然な色で撮影する

蛍光灯や特殊な光源の下では全体の色バランスがくずれることがあります。蛍光灯の下で自然な色で撮影するには、C-2500Lの「ホワイトバランス」で「ワンタッチホワイトバランス」(P.102) を利用して基準となる色合いを変えることで、簡単に見たままの色で写すことができます。

用意するもの

・カメラ
・白い紙 (A4サイズ以上のもの)

1 **[ ] メニューボタンを押し、 で を選択します。**

2 **[OK] ボタンを押すと、ホワイトバランス値を設定する画面が表示されます。**

3 **白い紙を蛍光灯の光が当たるような壁に貼るか、人に持ってもらい、ファインダーいっぱいに入るようにして [OK] ボタンを押します。**
液晶モニタに「GOOD」と表示され、基準となる色合いが設定されます。

4 **設定ができたら、普通に蛍光灯の下で撮影します。**